

# 衛生環境研究所にゆーす

平成30年度 No.1(通算 第135号)

## ◆記事◆

- ・我が家の害虫対策
- ・こんにちは。京都市感染症情報センターです。



## 我が家の害虫対策

今年も暑い夏がやって来ました。暑気払いにそう麺を作ろうと思って、乾麺を保存容器から取り出したら、虫だらけになっていた経験はありませんか。

気温や湿度が高い日本の夏は、人にとっては、過ごしにくい季節ですが、虫の繁殖にとっては絶好の季節です。このため、家の中で、まさかと思うような食品や場所から、害虫が大発生することがあります。

それでは、どんな場所にどんな害虫が発生しやすいのか、台所を中心に点検してみましょう。



ヒメマルカツオブシムシ(成虫 約2.5mm)  
かつお節、煮干し等に発生する



## こんなところにも害虫が！

### ①引戸の奥



もし、小麦粉などの粉ものをこぼしたままにしたら・・・

ケナガコナダニが発生していることがあります。

体長1mm以下で肉眼では見つけにくいのですが、大量に発生すると白い粉をふいたように見えます。

また家のほこりの中にもいますので、畳などで大量に発生すると、コナダニを捕食するツメダニという別のダニが繁殖することがあります。コナダニは人を刺しませんが、ツメダニは人を刺すおそれがあるので注意が必要です。



ケナガコナダニ (0.4mm程度)

もし、かつお節や煮干しの保存が不十分なら・・・

ヒメマルカツオブシムシが発生していることがあります。

幼虫は体長3mmくらいで、(成虫は前ページに掲載しています。)動物性食品以外にも昆虫標本、はく製や毛織物、絹などの衣類までも食害します。

羊毛のじゅうたんを食害することから、英名では carpet beetles (カーペット甲虫)と呼ばれています。



ヒメマルカツオブシムシ (幼虫 3mm)

### ②引出しの中

もし、小豆など豆類の保存が不十分なら・・・



アズキゾウムシが発生していることがあります。

成虫は体長2~3mmくらいで、成虫が小豆などに卵を産み、一粒の豆で幼虫が4~5匹も育つので、貯蔵した小豆などに大きな被害をもたらします。



アズキゾウムシ (成虫 2~3mm)

もし、お菓子や香辛料の保存が不十分なら・・・

タバコシバンムシが発生していることがあります。

成虫は体長2～3mmくらいで、乾燥たばこの葉を食害することが名前の由来になっていますが、ほとんど何でも食べます。

特に好むのが小麦粉などの粉ものやその加工品、そう麺などの乾麺、ビスケットなどのお菓子や香辛料などです。古くなったそう麺に大発生することがあります。



タバコシバンムシ (成虫 2～3mm)

### ③米びつの中

もし、お米の精米が不十分なら・・・

コクゾウムシが発生していることがあります。

体長3mmくらいで、ゾウの鼻のような長い口器が特長です。

成虫、幼虫ともに米を食害し、成虫が米に卵を産み付け、幼虫は米粒の内部を食べて育ちます。



コクゾウムシ (成虫 3mm)

### ④台所の外でも

もし、窓が開いていると・・・

ノシメマダラメイガが飛来して卵を産み付けることがあります。

体長8mmくらいの小さな蛾で、成虫は食害しませんが、数百もの卵を餌やその周辺に産み付けます。



ノシメマダラメイガ (成虫 8mm)

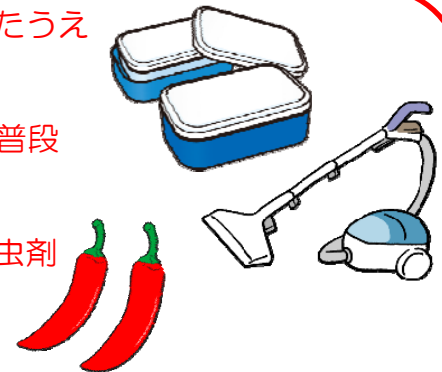
幼虫は、穀類やその粉、乾燥果実、菓子類、チョコレートなど様々なものを食害します。かじる力が強いのでチョコレートの銀紙を食い破って、中に入ることもあります。



ノシメマダラメイガ（幼虫 10mm）

## 害虫対策はどうすればいいの？

- 乾物などの保存食品であっても密封容器に保存したうえで、できるだけ早めに食べましょう。
- 食品をこぼしたときはすぐに拭き取るとともに、普段からこまめに掃除をしましょう。
- 米びつへ入れる唐辛子などの忌避剤や衣類等の防虫剤を上手に使いましょう。



- 屋内に成虫が入らないよう、網戸にしましょう。（ノシメマダラメイガなど）

## その他

今回出番がありませんでしたが、台所の害虫キングといえばゴキブリです。その幼虫（写真右）は、4～5mmです。まだ小さくて羽もなく、キングの風貌こそありませんが、大きくなる前にしっかり駆除しましょう。



クロゴキブリ（幼虫 4～5mm）

## 最後に

今回は、貯蔵食品害虫を中心に、ほんの一部を御紹介しました。普段は野外にいる虫も、家の中に入れば天敵から襲われる心配もなく、安心して活動することができます。そこに食べ物があればまさにパラダイスです。もし台所付近で見慣れぬ虫がたくさんいたら、その原因が必ずあるはずです。この記事がその原因究明と対策の一助になれば幸いです。

衛生環境研究所 微生物部門 衛生動物担当



# こんにちは。京都市感染症情報センターです。

担当：管理課疫学情報係

## はじめに

「インフルエンザ警報発令!」「梅毒急増中!」などの報道・・・この基となる患者数などの情報はどこがどうやって集めているか御存知でしょうか?これらの感染症に関する情報の収集や分析などは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」といいます)に基づく国の**感染症発生動向調査事業**として、都道府県・保健所を設置する市・特別区に設置されている**感染症情報センター**が行っています。京都市では、感染症情報センターは当研究所に設置されています。

## 感染症発生動向調査事業って?

感染症法の前文では、ペスト・痘そう・コレラ等の感染症根絶は「人類の悲願」であり、良質かつ適切な医療の提供を通じた、感染症への迅速かつ的確な対応を求めています。

そのためには、まず感染症の発生状況を正確かつ継続的に把握し、その情報を基に予防や拡大防止を図る必要があります。この一連のシステムを**感染症発生動向調査事業**といいます。

この事業は、患者の発生情報を全国同じ基準で収集・分析し、その情報を迅速に医療関係者・市民へ提供するもので、医療関係者・患者をはじめとする、多くの方々の日常的な御協力により維持されています。

感染症発生動向調査事業の対象とする疾患は、平成30年7月1日現在115疾患あり、感染力や症状の程度などにより下表のように分けられています。

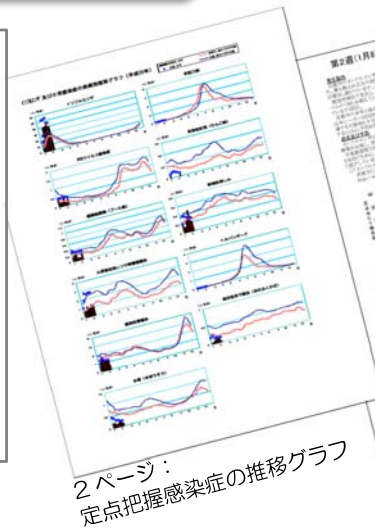
全数把握 感染症	対象となる感染症を診断した医師すべてが届け出ます。(結核など89疾患) 感染力や症状の程度によりさらに一類から五類に分類されています。	
定点把握 感染症	人口に応じて指定された、患者定点の医療機関が届け出ます。全数把握感染症に比べ、患者数が比較的多いインフルエンザなどの感染症(26疾患)が対象です。さらに、対象疾患によって定点は次のとおり分かれています。	
	定点の種類 (京都市内の定点医療機関数)	対象疾患
	インフルエンザ (69)	インフルエンザ(鳥インフルエンザ・新型インフルエンザを除く)
	小児科 (43)	咽頭結膜熱、感染性胃腸炎など10疾患
	眼科 (10)	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎の2疾患
	性感染症 (13)	性器クラミジア、性器ヘルペスなど4疾患
	基幹 (1)	マイコプラズマ肺炎や薬剤耐性菌感染症7疾患
疑似症 (90)	原因不明な発熱・呼吸器症状・発疹・水疱の2疾患	

**感染症情報センター**では、市内医療機関から届けられた患者情報を NESID と呼ばれるオンラインシステムを使って情報の正確性等の確認を行い、全国の情報の取りまとめを行っている国立感染症研究所へ報告しています。併せて、国立感染症研究所から提供された全国情報を参照しながら、本市の情報を整理・分析し、市内医療機関や市民の皆様様に迅速な情報提供を行っています。その一つが毎週火曜日に発行している**京都市感染症週報**です。

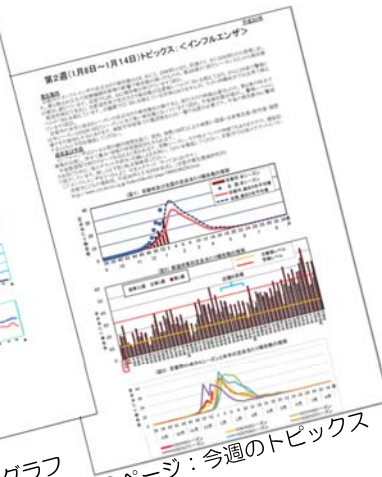
## これが京都市の感染症週報です！



1 ページ：今週のコメント



2 ページ：  
定点把握感染症の推移グラフ



3 ページ：今週のトピックス

## 週報を読んでみましょう！

週報は、感染症の早期把握やトレンド把握（過去との比較，都道府県間の比較など）をするために，その週に報告のあった京都市と全国の患者情報等を整理・図式化し，分かりやすく情報提供しています。

### 1 ページ：今週のコメント

トップページは，その週に市内医療機関から報告のあった感染症の特徴をまとめて，発生状況や診療・予防に役立つ内容を簡潔に説明しています。

全数把握感染症については，性別・年齢・症状・感染地域・感染経路などを簡条書にして載せています。また，定点把握感染症については，下表のように報告数の多い順に**定点当たり報告数**（注）等を掲載しています。

（市内定点数 インフルエンザ定点69，小児科定点43，眼科定点10，基幹定点1）

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ <sup>a</sup>	インフルエンザ	0.07	5
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.02	388
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.67	72
	③ 咽頭結膜熱	0.86	37
	④ 手足口病	0.58	25
	⑤ ヘルパンギーナ	0.49	21
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

### （注）定点当たり報告数？

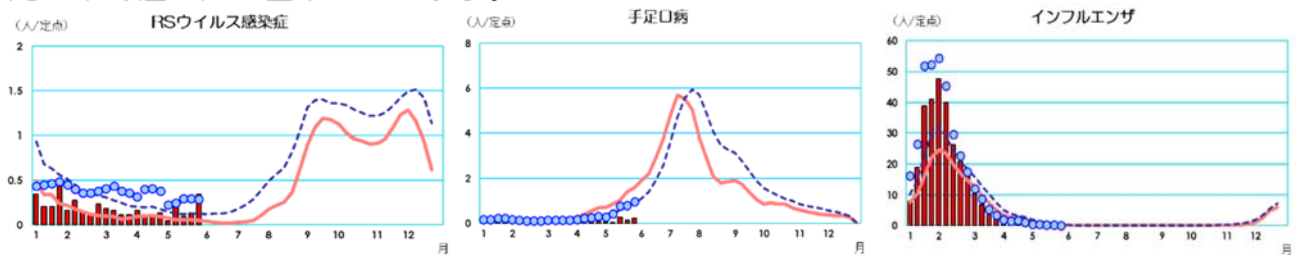
定点医療機関から報告された患者数を定点医療機関数で割った値のことで，言いかえると1医療機関当たりの平均報告数のことです。

例えば，上の表でこの週の感染性胃腸炎の報告数は「388人」です。これを市内の定点医療機関の数「43」（前ページの表参照）で割ると  $388 \div 43 = 9.02$  人 となり，この週に1医療機関で平均して9.02人の患者さんが感染性胃腸炎と診断されたこととなります。

ほかの地域や全国レベルで流行状況を比較する際，定点医療機関の数が異なるため，報告された患者数だけでは比較できませんが，定点当たり報告数を用いることにより，現在どの地域で流行しているのか，また京都市で今後流行する可能性があるかなどを予測することが可能となります。

## 2ページ：定点把握感染症の推移グラフ

定点把握感染症のうち小児科定点医療機関（市内 43 箇所，全国約 3000 箇所）が届け出る感染症（RS ウイルス感染症，手足口病等）と，インフルエンザ定点医療機関（市内 69 箇所，全国約 5000 箇所）および基幹定点医療機関（市内 1 箇所，全国 500 箇所）が届け出るインフルエンザについて，下のグラフのように，市内と全国の推移を過去5年間の平均値と共に図示しています。



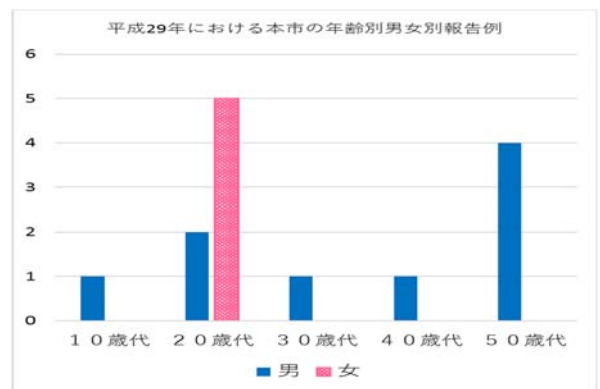
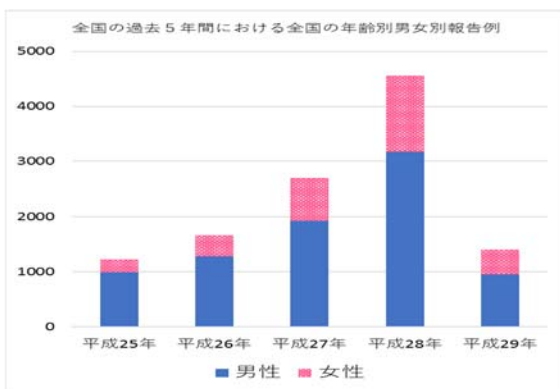
## 3ページ：今週のトピックス

京都市感染症週報の最大の特徴であるトピックスは，流行の兆しが見える感染症などについての情報をタイムリーに取り上げ，わかりやすく図表化し解説しています。

参考までに，平成 17 年から平成 30 年の間にトピックスに取り上げた件数を暦年及び疾患別にまとめると，下表のようになります。毎年平均的に取り上げている疾患と目立って多く取り上げている年（赤字で表示）のある疾患があることが分かります。

疾患名	平成 17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	
結核												1	1	2	1
侵袭性肺炎球菌感染症										1	1	2	1	1	
インフルエンザ	①	11	4	11	5	25	6	12	13	7	18	6	13	10	6
新型インフルエンザA (H1N1)					4										
A型肝炎														1	
B型肝炎													1		
E型肝炎													1	1	
ジカウイルス感染症												1			
ダニ媒介感染症														1	
デング熱				1				1				1	1	1	
アメーバ赤痢	1	2	3	1									1		
パラチフス，腸チフス					1										
感染性胃腸炎		11	9	7	5	4	6	4	11	2	5	4	4	3	1
細菌性赤痢	1			1											
腸管出血性大腸菌感染症	5	5	6	3	3	3	6	4	3	2	2	3	2		
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症															1
ヘルパンギーナ	3	2	5	2	1	3	1	3	4	4	4	1	4	1	
レジオネラ症			2	5	1								1	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	5		2	1	1	2	5		1	8	2	2	1	
RSウイルス感染症			3	4	3	4	5	7	10	5	5	2	4	1	
手足口病	1	1		3	1	9	6		4		9	1	5	1	
咽頭結膜炎（プール熱）	1	2		2	1				4	10	2	1	3	1	
流行性角結膜炎	2														
水痘	2	7	2	1		4	4	1		1					
伝染性紅斑			3				3	4				6			
突発性発しん			1			1	1	2							
百日咳				1	4	2								1	1
麻しん・風しん	1	1	3	9	1				5	14				1	
流行性耳下腺炎	②	8	5	1		10							6		
急性弛緩性麻痺															1
後天性免疫不全症候群	2	3	4	4	3	1	4	2	3	3	3	3	4	1	
ヒト免疫不全ウイルス（HIV）			1												
梅毒	③											1	2	5	1

- ① インフルエンザは流行を繰り返し、患者数も多いことから、毎年取り上げる件数が多い傾向がみられます。なお新型インフルエンザが流行した平成 21 年と、新型インフルエンザ等対策特別措置法の施行後に初めて流行した平成 26 年は、例年以上に多く取り上げています。
- ② 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は、一定の周期（4～6 年）で流行を繰り返すことから、流行した年を中心に取り上げています。
- ③ 梅毒は、ここ数年、本市及び全国とも急増傾向にあるために、高い頻度で取り上げています。例えば、平成 29 年第 16 週のトピックスでは、下のグラフにより梅毒が全国的に年々増加していること、本市では男女で年齢構成に特徴があることを示し、有効な感染予防方法、早期発見のための検査情報を提供しています。



## 最後に

感染症情報センターでは、このほかにも性感染症などを月単位で提供する「感染症月報」や、「こどもの感染症」など感染症の予防及び拡大防止に向けて、医療機関だけでなく市民の皆さんにもわかりやすいように情報提供をしています。

感染症の情報は下記の URL 又は QR コードから御覧いただけます。

ぜひ御活用いただき、みんなで感染症予防に努めましょう！

感染症情報（発生動向）

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000176816.html>

感染症の発生状況や子どもの感染症について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000175197.html>



編集発行  
京都市衛生環境研究所  
平成30年7月 発行  
京都市印刷物  
第304350号

〒604-8845  
京都市中京区壬生東高田町1番地の20  
TEL 075-312-4941（代） FAX 075-311-3232  
[http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/41-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html](http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/41-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html)



市民による自治120年

